

《第1号議案》 2023年度事業報告

1. 部落問題・人権問題に関する各種の調査研究

(1) 部落問題の歴史的研究（主任研究員 塚田孝・竹永三男）

1. 2023年度の方針

2023年度定時総会では、人権と民主主義をめぐる状況とその今日的展開をふまえながら、部落問題を前近代から現段階までの歴史展開の総過程の中で位置づけるとともに、身分と部落問題、人権にかかわる諸問題について各時代の社会構造全体の中で具体的に把握する研究に取り組むことを基本方針とし、次の諸点を課題として掲げた。

1) 身分と部落問題に関する歴史研究、社会運動史研究などの成果もふまえて、中・近世から現代までを射程に入れて共同研究を推進する。

2) 前近代の賤民身分および身分的周縁を中心とし、さらに貧困・移動する弱者を視野に入れた身分社会の歴史的研究を、地域社会の構造とその展開との関連に視点を据えて推進する。あわせて、国際的視野での比較史的研究に取り組む。

3) 近現代日本の人権と民主主義の歴史的展開とその特質を明らかにする研究を進める中で、地域史の再構成をめざして近現代日本の人権問題とそれに関連する社会運動を歴史的に解明する研究に引き続き取り組む。

4) 「部落問題解決過程の研究」の成果を踏まえ、今日の日本と世界における人権と民主主義をめぐる諸問題とその解決のための歴史的条件に関する研究に取り組む。

5) 科学研究費助成事業関係では、採択された研究課題に取り組むとともに、新規応募を引き続き積極的に進め、共同研究・個人研究の発展を図る。

2. 研究活動の総括

上記の研究方針に即して、2023年度の歴史部門の研究活動を振り返る。研究活動の方針1)に即して広範な問題を取り上げた研究例会を開催した。その中で、研究活動方針2)については、③⑥⑦、研究活動方針3)については、①②④⑤⑧、研究活動方針5)については、①②④⑧の研究会を開いた。また、研究活動方針4)については、総合部会の企画実施に協力した。

2023年

① 7月22日（元町奈良県御所市・元町歴史研究会客演報告）

竹永三男「大正村風俗誌について」

② 9月17日（歴史研究会・「奈良科研」研究例会）

第61回部落問題研究者全国集会歴史Ⅱ分科会報告準備会

本井優太郎「戦時期における大都市近郊地域の「軍需産業都市、化とその特質」

森下 徹「高度成長期の地域開発と文化財保存運動—大阪・泉北教組の活動を中心に」

③ 10月29日部落問題研究者全国集会歴史Ⅰ分科会

分科会テーマ「近世身分研究の新展開」

細谷篤志「近世朝廷の下級役人と地域社会」

藪田 貫「『大塩平八郎の乱』と被差別民」

塚田 孝「補足報告 史料紹介・吉五郎処刑一件と竹林寺」

④同上・歴史Ⅱ分科会（「奈良科研」研究例会と共催）

分科会テーマ 「戦時・戦後高度成長期の大都市近郊における地域変容」

本井優太郎「戦時期における大都市近郊地域の「軍需産業都市」、化とその特質」

森下 徹「高度成長期の地域開発と文化財保存運動—大阪・泉北教組の活動を中心に—」

⑤11月4日（歴史研究会、日本史研究会近現代史部会・大阪歴史科学協議会帝国主義研究会と合同）

竹永三男「1938—39年の中国山西戦線従軍画家・加納辰夫の戦場体験と戦後の平和活動」

⑥12月26日（歴史研究会例会）

藤本清二郎「近世踏瀬宿における移動死・移住先死—奥州「流動層」の具体像—」

→研究ノート「近世踏瀬宿における行倒死人と埋葬—奥州「流動層」の具体像

（二）—」『部落問題研究』248輯、2024年2月に掲載

2024年

⑦ 1月6日 共同研究「近世の刑罰と身分」第1回研究例会

町田 哲「趣旨説明」「徳島藩の身分研究と刑罰」

⑧ 2月15日（歴史研究会例会・「奈良科研」研究例会）

岡島永昌「奈良盆地の鉄道敷設と地域の変容—王寺町域を中心に—」

3. 研究成果の『部落問題研究』への掲載

研究例会の報告と『部落問題研究』の編集活動を連繫することについては、研究例会

⑥の報告を研究ノート「近世踏瀬宿における行倒死人と埋葬—奥州「流動層」の具体像（二）—」として『部落問題研究』248輯に掲載することができた。

4. 他学会・研究会との合同研究例会

研究例会①は、奈良県御所市内の地域研究会である元町歴史研究会において、同地で確認された歴史資料「大正村風俗誌」に関する分析結果を地元の方々を前に報告したものである。

また、研究例会⑤は、関西の友好関係にある学会の研究部会との合同部会として開いたものであり、当該学会との研究交流を具体化したものである。

5. 新たな共同研究の開始

町田哲研究委員を中心として共同研究「近世の刑罰と身分」研究会を組織し、第1回研究例会（2024年1月6日）、第2回研究例会（4月13日）と毎回20名前後の参加者得て活発に開かれている。また、第3回研究例会（6月29日）以後の報告者も確定するなど定着が図られていると共に、その報告を『部落問題研究』に掲載するよう努めている。

（2）現代部落問題論・人権論の研究（主任研究員 奥山峰夫）

課題として、①「人権問題意識調査」の検討、②「部落差別解消推進法」に関わる動向の検討、③地域における人権諸課題の追究、をあげてきた。

【現代部落問題論・人権論研究会】

2023年 9月29日 井手幸喜：京都市の「改良住宅」の今後について

11月24日 片方信也：京都の高さ等規制緩和・団地再生計画の検討
【部落問題研究者全国集会 現状分析・理論分科会】

2023年10月29日 雑賀光夫：旧「同和地区」のまちづくりを考える
—和歌山市芦原地区の場合
植山光朗：旧「同和地区」のまちづくりを考える
—北九州市北方地区の場合
井手幸喜：京都市のいくつかの旧「同和地区」の
再生計画について

(3) 人権と教育に関する理論的・実証的研究（主任研究員 梅田 修）

【教育研究会】

教育研究会では適宜例会を実施してきた。例会のテーマ及び報告者は次の通りである。

2023年

5月14日 森田満夫：好井裕明監修『差別って何だろう?』全3巻を読む

2024年

3月17日 生田周二：教育系学会におけるヘイトスピーチ問題と研究倫理

【部落問題研究者全国集会 教育分科会】

第61回部落問題研究者全国集会「教育」分科会では、テーマ「『差別』『部落差別』の教材化をめぐる」にもとづき、次の報告と討論を行った。

10月29日 森田 満夫：「差別」の教材化をめぐる—『差別ってなんだろう』
全3巻にふれて—

毛戸 祐司：高校の人権教育で、部落差別は今どう扱われているのか

(4) 人権に関わる文芸の研究（主任研究員 秦 重雄）

【文芸研究会】今年度は2カ月に1回のペースで開催できた。

第229回（7月2日）海野牛子「カジュウの汚点」を読む

第230回（9月3日）羽中田誠「冬枯れ・骨が原」を読む

第231回（1月21日）『社会文学』第58号〈特集 差別と文学 水平社10
0年〉を読む

第232回（3月10日）植松安太郎「星のない銀河」を読む

上記例会における報告と討議の主な内容は、毎回発行の『文芸研究会ニュース』に掲載している。また、月刊誌『人権と部落問題』に掲載の「文芸の散歩道」は本研究会が担当しており、1999年10月以来、270回を数えている。

【部落問題研究者全国集会 思想・文化分科会】

第61回部落問題研究者全国集会・「思想・文化」分科会では、〈テーマ：「部落問題文芸作品年表 明治篇」から見えて来るもの〉に基づき、次の報告と討議を行った。

10月29日 秦重雄：「部落問題文芸作品年表 大正篇」から見えて来るもの

「部落問題文芸作品年表 明治篇」自体は『部落問題研究』246輯に収録されている。

2. 科学研究費助成事業による新たな研究の推進

(1) 2021年度の科学研究費助成事業に申請した「奈良県の地域構造変容と部落問題に関する歴史的研究―地域構造分析・比較研究を通して」（研究代表者：竹永三男／基盤研究B／5年間）が採択・交付された。この科研費研究を基盤にして、部落問題解決過程の総合的地域史研究を継続的に推進してきた。

(2) 2022年度の科学研究費助成事業に申請した6件のうち、次の3件が採択された。この科研費研究を基盤にして、個別研究の深化をはかってきた。

- ①「近世における流動層社会の構造的研究―『行き倒れ』を中心に―」（研究代表者：藤本清二郎／基盤研究C／3年間）
- ②「高度経済成長期の地域変動と社会運動―泉北における文化財保存運動と泉北教組」（研究代表者：坂井田徹／基盤研究C／3年間）
- ③「戦時・戦後における大都市近郊地域の歴史的変容と『生活課題』―兵庫県明石市の分析」（研究代表者：本井優太郎／基盤研究C／5年間）

(3) 2023年度の科学研究費助成事業に申請した次の3件が不採択となった。

- ①「学校教育における人権教育の独自の意義に関する基礎的研究―道徳教育と比較して」（研究代表者：梅田修／基盤研究C）
- ②「地域改善財特法失効後の大規模旧『同和地区』の再開発とまちづくりに関する研究」（研究代表者：石倉康次／基盤研究B）
- ③「八鹿高校事件の社会史的研究―高度成長期の社会構造変化と部落問題の転換点―」（研究代表者：大森実／基盤研究C）

(4) 2024年度の科学研究費助成事業に申請した3件のうち1件が採択となった。

- ①「部落問題解決過程の地域的偏差を生み出す諸要因に関する研究」採択
(研究代表者：石倉康次／基盤研究B／3年間：2024～2026年度、但し2027年度に研究成果報告書提出)
- ②「八鹿高校事件の歴史的事実の究明―高度成長期の社会構造変化と地域民主主義に注目して」（研究代表者：大森実／基盤研究C／3年間）不採択
- ③「学校教育における人権教育の定位に関する基礎的研究―道徳教育との比較を通して―」（研究代表者：梅田修／基盤研究C／3年間）不採択

3. 部落問題研究者全国集会などの開催

2023年10月28日（土）～10月29日（日）、長浜バイオ大学京都キャンパス・職員会館かもがわを会場に、対面方式によって開催した。参加者は延べ93人であった。

(1) 全体集会（1日目）は、「部落問題解決過程の現段階の争点と研究課題」をテーマ

に、次の2報告にもとづいて質疑・討論を行った。

- ・杉島 幸生（弁護士）「全国部落調査事件高裁判決を読み解く」
- ・梅田 修（部落問題研究所）「『部落差別の実態に係る調査結果』が明らかにしたこと—人権意識調査の意味を問う—」

(2) 分科会（2日目）は、5つの分科会（歴史Ⅰ・Ⅱ、現状分析・理論、教育、思想・文化）ごとに報告・討論をおこなった。

4. 『所蔵図書・資料総合目録』の作成及び図書・資料の収集・紹介に関する事業

(1) 『部落問題研究所所蔵図書・資料総合目録』の作成

1) 総合目録の内容を確定した。

①図書目録

②資料目録—「三好文庫」「北原文庫」「水平文庫」「北川文庫」

③視聴覚等資料目録

2) 3カ年計画の3年度（2021年度）は、データ入力をほぼ完成し、2023年度はHP掲載に向けたデータの点検を進めた。

(2) 部落問題関係図書・資料の収集

川野英二・岸政彦編『岩波講座・社会学第2巻—都市・地域』（岩波書店）などの図書を購入した。また、多数の図書・資料の提供を受けるとともに、歴史、現状、運動、行政、人権、教育、文芸などに関する資料の収集を進めた。

(3) 関係図書・資料の紹介

『人権と部落問題』『部落問題研究』『会報』において、関係資料の紹介をおこなった。

6. 機関誌・研究紀要・学術図書等の刊行

(1) 『人権と部落問題』（月刊）を毎月2200部、年12回を編集・刊行した。

特集のテーマは、次の通りである。

「脅かされる国民の暮らし」（4月号）

「今日の平和教育の意義」（5月号）

「旧同和地区のまちづくりを考える」（6月号）

「国民生活を守る自治体の役割と活動」（7月号）

「軍拡ではなく、平和の追求を」（8月号）

「ジェンダー平等の実現を」（9月号）

「相次ぐ生活保護裁判の勝訴と生存権保障」（10月号）

「人権意識調査をめぐる問題」（11月号）

- 「いのち脅かす健康保険証の廃止」 (12月号)
- 「平和教材『はだしのゲン』削除問題」 (1月号)
- 「アイヌ民族の権利―サケ捕獲権確認裁判」 (2月号)
- 「学校給食の無償化の実現を」 (3月号)

(2) 紀要『部落問題研究』の241輯、242輯、243輯、244輯各500部を刊行した。主な論稿は、次の通りである。

- 245輯 第60回部落問題研究者全国集会報告
- 246輯 牧原成征「足利・館林・新田の長吏とその由緒」
書評：築山 崇「ルビンシュテイン著 小野隆信訳『人間と世界』」
研究資料：秦 重雄「部落問題文芸作品年表―明治篇」
石倉康次「川口學さんに聞く―福岡県糟屋郡での部落問題解決への歩み」
(部落問題解決過程への証言)
書評―茂木陽一「松尾壽著『近世後期隠岐嶋流人の研究』」
- 247輯 塚田 孝「都市周辺の寺＝竹林寺―周辺村方史料から照射する」
藤本清二郎「近世踏瀬宿における村継送りと移動―奥州『流動層』の具体像 (一)―」
時評：鈴木清司「五六年目の国民投票―オーストラリア先住民族が直面した新たな現実―」
研究資料：秦 重雄「部落問題文芸作品年表―昭和・戦前篇」
- 248輯 大森 実「『地域民主主義』の底流と八鹿高校事件―教師集団・生徒集団を中心に―」
研究ノート：藤本清二郎「近世踏瀬宿における行倒死人と埋葬―奥州『流動層』の具体像 (二)―」
研究資料：秦 重雄「部落問題文芸作品年表―昭和・戦後篇 (一)―」

研究委員会の中に『部落問題研究』の編集担当(6名)を置いて編集を検討し、定期発行を継続してきた。但し、投稿論文の少なさなど安定的な発行には課題を残している。

(3) 関係図書編集と刊行

1. 山田 稔『人はみな 人と接して 人となる』(2023年10月/自費出版)
500部刊行
2. 東上高志『八鹿高校事件から半世紀』(2023年11月/自費出版)
1200部刊行

7. 法人の機能を活用した各種サービス

(1) 輪読会・読む会の開催

1. 島崎藤村「家」「春の輪読会

2023年度は「家」8回、「春」3回開催した。「春」は継続中。

2. 「水平新聞」を読む会

全国水平社創立100周年（2022年）を迎えて、2001年より「水平新聞」を読む会を月1回程度継続的に開催してきた。

(2) 研究会の開催

歴史、現代部落問題・人権論、教育、文芸の各分野ごとに研究会を開催した（詳細は、各種の調査研究の項を参照）。会場は、明記したもの以外は部落問題研究所。

研究会

- 2023年 5月14日 教育研究会
7月2日 文芸研究会
7月22日 歴史研究会（元町歴史研究会、奈良県御所市にて）
9月3日 文芸研究会
9月17日 歴史研究会
9月29日 現状分析・理論研究会
10月28日 第61回部落問題研究者全国集会 全体会
10月29日 第61回部落問題研究者全国集会 分科会
11月4日 歴史研究会（日本史研究会近現代史部会、大阪歴史科学協議会帝国主義研究部会との合同、機関紙会館にて）
11月24日 現状分析・理論研究会
12月26日 歴史研究会（オンライン）
2024年 1月6日 歴史研究会（「近世の刑罰と身分」研究会、オンライン）
1月21日 文芸研究会
2月15日 歴史研究会（オンライン）
3月10日 文芸研究会
3月17日 教育研究会

総合研究会

2つの観点（1. 部落問題解決過程の進展を阻害する様々な事態・動向について、今日の人権と民主主義をめぐる状況と運動をふまえて、批判的な検討を進める。2. 部落問題解決過程の到達点に関する研究を推進し、研究成果の普及を図る。）から、2022年度から総合研究会を適宜開催していた。

2023年

- 第5回 4月22日 『人権と部落問題』2023年3月号の検討（藤本清二郎・広川禎秀・石倉康次・川辺 勉）
第6回 7月29日 杉島幸生「全国部落調査事件高裁判決を読み解く」
第7回 9月24日 梅田修「『部落差別の実態に係る調査』が明らかにしたこと」

2024年

- 第8回 1月18日 藤本清二郎「『部落差別に関する司法判断』論・『有害情報対策』論の論究について」
石倉康次「差別論の流行をどうみるか」
第9回 3月9日 丹羽徹「木村草太著『「差別」のしくみ』を読む」

(3) 学習講座の開催

2023年度は、「人権と部落問題講座」として、次の4講座を実施した。

第1講座(2023年8月5日)

尾川昌法(前部落問題研究所理事長)「新版 写真で見る水平運動史を編集して」

第2講座(2023年8月5日)

毛戸祐司(京都府立高校)「高校の人権教育で部落差別は今どのように扱われているか」

第3講座(2023年9月23日)

※総務省の「依命通知」と『全国部落調査』復刻版裁判高裁判決を受けて

丹羽徹(龍谷大学)「人権をめぐる今日的動向からみた高裁判決の問題点と課題」

奥山峰夫(部落問題研究所)「判決の部落問題の現状認識批判」

コメンテーター 石倉康次(総合社会福祉研究所)

第4講座(2023年9月23日)

※住宅・まちづくり政策の動向と旧同和地区の再開発を考える

小伊藤亜希子(大阪公立大学)「政府の住宅・まちづくり政策の争点をめぐって」

井手幸喜(部落問題研究所)「京都の旧同和地区『再生計画』の課題」

宣伝チラシを広く配布したこともあり、各講座とも20名以上の参加があった(対面+オンライン)。

(4) 講師の斡旋

部落問題・人権問題の講師派遣については、コロナ禍の影響があったものの、「部落差別解消推進法」や全国水平社100周年記念に係わって開催された各種集会や人権講座への講師要請に応じてきた。

(5) 関係資料の閲覧・貸し出し

部落問題・人権問題に対する資料の貸し出し要請に対応してきた。

(6) 相談活動

部落問題・人権問題に対する各種相談に対応してきた。

8. 目的を同じくする各種機関・団体との連絡・協力

全国各地で活動している研究機関・研究会などと連絡を密にして、研究・調査・学習などの事業について、協力関係を発展させてきた。

9. 役員会などの開催

(1) 臨時総会の開催

2024年3月24日(日)に臨時総会を開催して、次の議案を審議し、議決した。

- ① 2024年度事業計画
- ② 2024年度資金調達及び設備投資の見込みについて
- ③ 2024年度収支予算

(2) 役員会

1) 理事会を7回開催して、研究所の事業運営について審議し、執行した。

- 第1回 議事 ① 定時総会の議案について
(5月27日) ② 2022年度監査報告について
③ 研究活動について
④ 事情活動について
⑤ HPの更新について
- 第2回 議事 理事長(代表理事)・常務理事選任の件
(6月11日)
- 第3回 議事 ① 研究活動について
(7月30日) ② 財政活動について
③ 事業活動について
④ HPの更新について
⑤ 2023年度部落問題研究所の体制について
- 第4回 議事 ① 研究活動について
(9月24日) ② 財政活動について
③ 事業活動について
④ HPの更新について
- 第5回 議事 ① 研究活動について
(11月26日) ② 財政活動について
③ 事業活動について
④ HPの更新について
- 第6回 議事
(1月21日) ① 研究活動について
③ 財政活動について
④ 事業活動について
⑤ HPの更新について
⑥ 将来検討委員会について
- 第7回 議事 ① 部落問題研究所の将来検討
(3月9日) ② 屋根の防水工事に関わる見積り
③ 2023年度臨時総会の議案について

2) 監事による監査

監事(4名)は、2023年5月17日部落問題研究所において、2023年度定時総会に附議する業務執行状況・財産状況について監査した。

(3) 委員会

2019年度より、5つの委員会体制（編集委員会・研究委員会・財政委員会・事業委員会・資料委員会）をとっている。2023年度は、編集委員会を12回、研究委員会を6回、財政委員会を5回、事業委員会を6回、所管の事項を審議した。この他にHP関連の会議を継続的に開催した。

(4) 所内会議・事務局会議

2021年度まで開催していた役職員全員による所内会議を再開し、2023年度は2回開催した。部落問題研究所の運営に関する実態と課題を役職員で共有することに務めた。なお、理事長・常務理事・職員・ボランティアによる事務局会議は適宜開催した。

(5) 将来検討委員会

2016年7月18日に発足した第二次将来検討委員会は、2016年度は5回、2017年度は3回、2018年度は1回、2019年度は2回、2020年度は3回開催し、部落問題研究所の将来展望に関わる課題（研究活動・財政問題・図書資料の保存）について検討してきた。2021年～2022年度は開催しなかったが、部落問題研究所の将来検討が不可避な事態となり、2023年度に再開し、2回開催した。

(6) 会員の異動状況

2023年度末会員は、表の通りである。

会員数動向表 2023年度

種別	2022年度末	2023年度		2024/3/31 現在	増減
		入会	退会		
A 12,000	194	7	9	192	-2
B 6,000	44	5		49	5
C 20000	66		5	61	-5
賛助D 50,000	15		1	14	-1
E 特別会員	3			3	0
	0			0	0
種別移行計					
合計	322	12	15	319	-3

(注) 2020年3月20日の理事会で公益社団法人部落問題研究所会費規程を改定した。会員A・会員Bはそのままであるが、賛助会員Cは会員Cに、賛助会員Bは賛助会員Dに変更し、賛助会員Aは会員がいないので廃止した。特別会員はEとした。

(7) ボランティアの協力

現在8名の方がボランティアとして来所されている。図書資料の整理、「会報」の作成、雑誌の編集・校正、図書資料のデータ入力の仕事に携わってもらっている。